

高校期の全身症状と二度の強い悪化を経て外出時のマスクが不要になった青年期アトピーの経過 (19 歳 女性)

症例 ID：001-19-OI | 記録日：2016 年 4 月 23 日

1. 診断・治療前経過

小学校 3 年頃から膝裏と肘裏の黒ずみ、蕁麻疹があり、外用薬を断続的に使用しました。副鼻腔炎や口角の亀裂も繰り返していました。高校 3 年春に治療を開始し、数か月後から首を中心に強い症状が出ました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	皮膚科で処方された軟膏を、症状時に使用しました。
製品名	製品名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学校期から断続的に使用しました。
中止時期	2015 年 4 月頃です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学校 3 年頃	来院前	膝裏、肘裏の黒ずみと蕁麻疹がみられました。
2015 年 4 月	治療開始	高校 3 年春に治療を開始しました。
2015 年 7 月頃	1 回目の強い悪化	首の皮膚が厚くなり、浸出液、傷、痛み、不眠、微熱が続きました。
約 3 か月後	一時軽減	症状が落ち着き始めました。
2015 年 11 月頃	2 回目の強い悪化	顔が赤く腫れ、赤黒い状態となりました。
2016 年初め～4 月	回復傾向	夜眠れるようになり、マスクなしで外出できるようになりました。

4. ピーク時期

ピークは、2015 年 7 月頃の首を中心とした浸出性症状と、同年 11 月頃に顔が赤く腫れた時期です。

5. 困りごと

- ・首を動かすことや歩行がつかく、夜間の不眠が続きました。
- ・学校には通いましたが、授業中に眠ることがありました。
- ・顔症状のため外出時にマスクが必要な時期がありました。

6. 経過のまとめ

二度の強い症状を経て、2016 年初めから夜間睡眠と顔の状態が改善しました。

2016 年 4 月時点ではマスクなしで外出できるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。